

指導のねらい

聞き手を引き付けながら分かりやすく説明したり、話し手の意図を踏まえながら的確に聞いたりすることができるようにする。

課題の見られた問題の概要と結果

B③ 目的や意図に応じて、資料を活用しながら話し方を工夫したり、話の中心や話し手の意図をとらえて質問したりする。

正答率：設問一①80.9%，設問一②78.1%，設問二73.3%，設問三70.1%

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 A 話すこと・聞くこと

ア 考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。

授業アイデア例

例1 は課題を取り立てて指導する場合、例2 は課題の解決を図る単元を通して指導する場合の具体例

例1 資料を提示する効果的なタイミングを理解することで、聞き手を引き付けながら分かりやすく説明する。

1 グループごとに作成した発表原稿を基に、提示する資料を準備する。

2 グループごとに資料を提示するタイミングのパターンを話し合う。

3 グループごとにタイミングのパターンを選び、提示の際の話し方も考えながら、発表の練習をする。

4 グループごとに発表し合い、相互評価する。

【資料を提示するタイミングのパターン(例)】

I 複数の資料を一度に提示

資料	話す内容
資料1	わたしは、…というテーマについて調べました。
資料2	調べて分かったことを、これら三枚の資料を使って、説明していきます。
資料3	資料1は、…を示しています。

II 複数の資料を一つずつ提示

資料	話す内容
資料A	…ということが分かりました。そのことを示すのが資料Aです。
資料B	次に、資料Bを見てください。これは、…。
資料C	最後に、資料Cを見てください。

※ IIのパターンについては、それぞれの資料に対して、「①説明した後に資料を提示」、「②資料を提示した後に説明」の二通りに分けることもできます。

※ 資料の一部をかくして提示する工夫もできます。

例2 観点に合わせて質問を工夫することで、話し手の意図を踏まえながら的確に聞く。

第一次

○ これまでの質問の仕方を振り返り、学習課題「観点に合わせて質問を工夫しよう」を設定する。

第二次

○ 課題やテーマに即して、各自400字程度の発表原稿を書く。
○ 代表児童の発表を全員で聞き、各自それに対する質問をカードに書く。
○ 全員が書いたカードを黒板に貼り、質問を観点ごとに整理する。

第三次

○ グループの中で一人一人が発表し、それに対して、自分が選んだ観点や指定された観点で質問をする。
○ 観点に合わせて質問を工夫することができたかどうかを評価する。

【黒板に整理した質問の観点(例)】

■観点1

伝えたいことの中心をとらえる質問

■観点2

自分の理解について確かめる質問

■観点3

取材や構成時の工夫を引き出す質問

■観点4

自分の意見と相手の意見とを比べる質問

一人一人が書いた質問のカード

四つめの観点から質問します。ぼくは…について…考えます。〇〇さんは…?

Aグループは一つめの観点から、Bグループは三つめの観点から質問してみましょう。

教師